

令和4年度 3年次「史学展開演習Ⅰ」事前登録

史学科の学生は、3年次前期に「史学展開演習Ⅰ」、後期に「史学展開演習Ⅱ」を履修します。

「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は、少人数で行われる授業であり、事前登録制をとっています。下記の登録期間内に K-SMAPYⅡ上で希望を受け付けますので、希望する授業を4つ入力してください。あわせて、選考の参考にするため、志望理由と3・4年次を通じて研究したいテーマを、参考文献を示した上で、具体的に記入してください。

- ◆登録期間：令和4年1月8日(土)12:50～令和4年1月14日(金)12:50（厳守）
- ◆登録方法：K-SMAPYⅡアンケート機能より
- ◆登録内容：①希望する授業を4つ選択（※下記、注意事項を参照のこと）
 - ②選択した4科目それぞれの志望理由（各250文字程度）
 - ③3・4年次を通じて研究したいテーマ（1000字程度）
- ◆結果発表：2月中旬（予定）

【登録画面上の注意事項】

- ☆ 希望科目の選択において、「第1希望」で選択した科目は、「第1希望」として扱いますが、第2～4希望で選択した科目の希望順位はすべて同順の「第2希望」として扱います。
- ☆ 「史学展開演習Ⅰ・Ⅱ」は同一教員で受講するため、「史学展開演習Ⅱ」は「史学展開演習Ⅰ」の選考結果に準じて自動的に登録されます。
- ☆ 登録期間内に事前登録を済ませなかった場合、希望通りに履修できない場合があります。
- ☆ 選考は、今年度前期までの累積GPA、志望理由、研究テーマを斟酌して行う
- ☆ 日曜日、1/10（月・祝）、冬期休暇中は事務室が閉室しているので、問合せの際は注意してください。

次年度の「史学展開演習Ⅰ」は、次頁以下に記される授業が開講されます。履修に際しては、授業内容を読んだうえで希望を出して下さい。

史学科ガイダンス資料

史学展開演習 I

No.	コース・分野	担当教員	授業テーマ
1	日本史学・古代史	山崎雅稔	日本古代史の研究
2	日本史学・古代史	佐藤長門	『日本三代実録』を読む
3	日本史学・中世史	藤本頼人 (高橋秀樹)	中世史料を読む(1)
4	日本史学・中世史	矢部健太郎	室町・戦国・織豊期の古文書と古記録
5	日本史学・近世史	吉岡 孝	日本近世史の研究史整理と卒論テーマの選択
6	日本史学・近世史	岩橋清美	日本近世史の研究法と史料
7	日本史学・近現代史	柴田紳一	日本近現代史を研究する学力を身につける
8	日本史学・近現代史	手塚雄太	日本近現代史研究
9	外国史学・東洋史	江川式部	東アジアの歴史世界—制度・社会・文化—
10	外国史学・東洋史	樋口秀実	東アジア史・東南アジア史研究
11	外国史学・西洋史	神長英輔 (大久保桂子)	西洋近世・近代史研究
12	外国史学・西洋史	神長英輔	西洋近代・現代史研究
13	外国史学・西アジア	石丸由美	西アジアの歴史と社会
14	考古学	谷口康浩	先史考古学の資料と研究法
15	考古学	青木 敬	古墳時代・古代の考古学と研究法
16	地域文化と景観	吉田敏弘	絵図古地図から読み解く景観と地域文化
17	地域文化と景観	林 和生	地域文化と景観研究の課題とその方法について

原則として、史学展開演習 I を担当する教員が「史学展開演習 II」「史学応用演習 I・II」「卒業論文」指導を担当するが、3・11 は () 内の教員が「史学応用演習 I・II」「卒業論文」指導を担当する。

授業内容（史学展開演習Ⅰ）

日本史学・古代史	山崎雅稔
<p>この演習は、日本古代史で卒業論文を書く学生を対象にしている。飛鳥・奈良・平安時代前期の文化史、地域史、国際交流史などを主な検討対象として、史料読解を基礎においた個人・グループでの報告・討論を軸に授業をすすめ、研究に必要な知識と分析方法を養っていく。</p> <p>日本古代史研究は、六国史や出土文字資料、金石文、律令格式・日記・儀式書、風土記や説話資料、さらには中国・朝鮮史料など、さまざまな史資料の分析をとおして、歴史にアプローチしている。近年の受講生の卒業論文のテーマも、倭の五王、初期仏教、医書・医学、荷札木簡、唐物交易、「国風文化」論、女性と仏教、古代東北史、駅伝制、武士の発生、御霊会、平安京都市論、渤海使と多様である。幅広い関心をもって研究に取り組んでほしい。</p>	
日本史学・古代史	佐藤長門
<p>この演習は、日本古代史で卒業論文を提出しようとする3・4年生を対象として、奈良時代～平安時代の諸問題を解明するための基礎力・応用力養成を目的とするものです。テキストには六国史の最後にあたる『日本三代実録』を使用し、必要に応じて律令格式や儀式書などを併用しつつ、履修生各自に割り当てた箇所の読み下しと人物・事項の解説などをおこなってまいります。なお来年度は、元慶2年3月29日条から読みはじめます。前期は主として4年生の発表が続きますので、3年生には授業のほか月ごとに山川出版社「日本史リブレット」「日本史リブレット人」から1冊を選んで論評するレポートを提出してまいります。研究テーマは人から与えられるものではなく、積極的・能動的にみずから探し出して見つけてくるものです。したがって学生諸君には教室内での学習のみでなく、学内外で催される研究会やシンポジウム、博物館での展示会などにも意欲的に参加することを望みます。</p>	
日本史学・中世史	藤本頼人（卒業論文指導 高橋秀樹）
<p>鎌倉幕府の歴史書『吾妻鏡』は明治時代以来、日本中世史研究の基本的かつ最重要の史料とされてきた。中世史料に一般的な和風漢文体（変体漢文）が「吾妻鏡体」とも称されていることは、『吾妻鏡』の読解が、中世史料全般に通じることを意味している。この授業では、諸本の校合、翻刻というテキストの扱いの基本から、史料の性格を踏まえての内容解釈、公家日記などの関連史料を合わせ読むことでの多角的・多面的な歴史像の構築など、史料の扱いや中世史研究の手法を実践的に学ぶ。『吾妻鏡』の最善本である吉川史料館所蔵本の写真を主たるテキストに用い、頼経將軍記の貞応元年(1222)から読み始める予定である。</p> <p>なお、この演習履修者の卒業論文指導および4年次の史学応用演習Ⅰ・Ⅱは高橋秀樹が担当する。</p>	

日本史学・中世史	矢部健太郎
<p>1・2年次の基礎的な演習で得た様々な知識をもとに、室町～織豊期に時期を限定して史料読解の演習を行う。対象とする素材は、主に武家社会においてやり取りされた古文書とする予定である。ただし、中世社会の復元のためには、多種多様な史料に関する理解が必要である。よって、公家衆や寺社が書き残した古記録などの史料の扱い方に関しても、十分に時間を割いて取り組んでいきたい。</p>	

日本史学・近世史	吉岡 孝
<p>本演習は、日本近世史、主に政治史・外交史・思想史などを対象に、卒業論文の執筆を希望する学生を対象とする。受講者は、各自卒論テーマの選択に向けて、関心のある日本近世史の学術論文を検出し、その論文を精読して、レジュメにまとめ報告・討論する。報告にあたっては、当該論文の内容構成はもとより、引用史料の読み方、取り扱い方・分析手法について、丹念に読み込む必要がある。また、当該論文の関連研究を踏まえて研究史上の位置づけや評価・課題・疑問点などについて報告してもらいたい。報告・討論を通じて、日本近世史の研究の方法・研究史・諸史料について知り、卒論テーマの選択に役立ててもらいたい。</p>	

日本史学・近世史	岩橋清美
<p>本演習は、日本近世史、主に経済史・社会史・文化史・地域史などをテーマに卒業論文の執筆する学生を対象とする。各自、卒業論文作成にあたり、論点に関わると思われる重要な論文を複数準備し、その内容をレジュメにまとめて報告を行う。報告については以下の3点を重視する。まず、第一に、論文の引用文献をできる限り精査し、史料の解釈が的確であるか、論旨に合致しているかを再検討する。第二に個々の検討をふまえて論文の構成や論理展開が妥当であるかを考える。第三にこうした研究論文の検討を通じて、自己の卒論テーマと論点を明確にし、執筆にむけた具体的な史料調査の方向性を決定する。本演習では、履修者が主体的に学ぶことを重視するため、他の報告者の発表に対しても積極的に発言し、日本近世史に関する知識を深めてもらいたい。</p>	

日本史学・近現代史	柴田紳一
<p>3年生前期を対象とする授業である。1・2年次を通じて身につけた基礎的学力を更に展開させる。より高次の史料・研究を読解し、ペーパーと口頭発表による報告を行ないゼミ参加者全体に自らの見解を知らせ、自らの関心を高め、研究力を身につけ、卒業論文1次題目につながる課題を設定していく。</p> <p>ゼミは、参加者の意欲と向上心と、様々な作業とが求められる。ゼミ参加者は、数度の報告を行ない、その準備や発表・討論を通じ、または課題の設定、調査、分析、ペーパー作成、質疑に対する回答を重ねることで、企画力や説得力を会得し、ひいては実社会で要求される諸能力を準</p>	

備できる。

日本近現代史には多種・多様な研究課題がある。そのため前期には、太平洋戦争の戦時下の記録で、日本近代史の縮図ともいわれる、内容豊富な清沢冽著『暗黒日記』などを共通の史料として用い、報告・討議の基礎とする。後期には、卒論 1 次題目をめぐる準備報告を求める。

日本史学・近現代史

手塚雄太

この演習は、日本近現代史、政治史・経済史・社会史、及び地域史をテーマとした卒業論文の執筆を希望する学生を主たる対象とします。

前期は、みなさん自身が関心のある複数の学術論文について、研究史上の位置づけや関連性を踏まえながら紹介をするという形で授業を進めます。論文講読を通じて、卒業論文の方向性を定めます。後期は、卒業論文のテーマに関わる史料について、広く調査した上で、興味深い史料の歴史的背景・意味などについて報告してもらいます。史料は受講生全員で毎回輪読します。史料読解を通じて、研究に不可欠な知識・認識、及び史料の適切な読解力を培ってもらいます。

例年、受講生の関心は多岐にわたるため、各自の自主性を重んじて特定の文献・史料を定めることはしません。その分、みなさんには積極性・主体性を求めます。これは報告時だけではなく、他の報告者の報告を聞くときも同様です。また、複数回のレポート執筆を通じて、卒業論文に必要なスキルを段階的に身につけていきます。

このほか、博物館展示の見学、史料の調査や編さんの現場を見学する機会を設けます。知的好奇心旺盛な学生の積極的な参加を望みます。

外国史学・東洋史

江川式部

本演習は、中国古代～近世史に関する事象をテーマに、卒業論文の執筆を目指す者を対象とします。具体的には、以下の1～3を総合的に行います。

1、史料読解：北宋・司馬光撰『資治通鑑』を選読し、そこに書き込まれた制度・社会・文化の諸相を読み解きながら、当該時代の中国とその周辺地域の歴史に対する知識と関心を拡げていく。

2、研究テーマの選択：①仮テーマの選定→②テーマに関する研究概要の整理→③研究動向の把握・先行研究の問題点の整理、を順に行うことにより、自分の問題意識をより具体的なものにしていく。

3、研究発表と討論：ゼミ内での研究発表を行い、質問に対する回答や討論を通して、自身が抱く問題点を整理し、論文の方向性を固めていく。

履修に当たっては、史料を読むことが好きかどうかと、自分は中国の歴史に関心があるか、をよく考えて受講してください。歴史世界に共感を持つことができるかに関わる大切な要素であり、卒論に取り組む際の実動力になります。

外国史学・東洋史	樋口秀実
<p>この授業は、来年度、中国・朝鮮・台湾・日中及び日朝関係などを含んだ東アジア地域、あるいは東南アジア地域の歴史的諸問題をめぐって卒業論文を書いてみたいという学生を対象とするものです。授業のなかで皆さんに具体的にやってもらうのは、①複数の論文を講読し、それらの比較・分析・批判（すなわち、研究史の整理）をしたうえで、論文の題目となるべきテーマを具体的に設定する、②それぞれの興味に応じて課題を探し出し、それについて調査・報告を行なう、③以上の内容を下敷きにして複数回のレポートを執筆する、の三つです。授業の最終的目標は、これらの作業を通じて、卒業論文の「設計図」をつくることです。なお、授業は皆さんの報告を主体に、皆さんを主役として進められます。教員である私の役割は、あくまでもアドヴァイザーの立場から、皆さんに助言する程度にとどめるつもりです。この演習において皆さんに希望することは、毎週の授業に積極的に参加し、少しうるさいくらいでいいですから、自分自身の意見を自分自身の言葉で述べることです。</p>	

外国史学・西洋史	神長英輔（卒業論文指導 大久保桂子）
<p>この演習は、西洋近世・近代史を主題として卒業論文を執筆する方を対象とし、おもに西洋近現代史に関わる専門的な研究の方法を学ぶことを目的とします。受講者は、西洋近世・近代史を主題とした指定様式での研究発表、発表前のペーパー提出、毎回の授業での発言を義務とします。発表では、自分で選んだ学術論文を手がかりにして自分で問いを立て、自分で入手した史料を読み解いてその問いに答えを出してください。また、これとは別に、前期の初めには、西洋近現代史の基礎的な概説書としてエリック・ホブズボーム『20世紀の歴史 上・下』を講読し、後期の初めには、受講者で話し合っ選んだ西洋近現代史の英語論文を講読します。</p> <p>この演習は、西ヨーロッパ、南ヨーロッパ地中海域、北ヨーロッパ、および南北アメリカの近世・近代史を研究したいと希望する方を中心とします。この展開演習の履修者は、3年次に卒論題目指導を大久保桂子が担当し、4年次（令和5年度）には、大久保担当の史学応用演習Ⅰ・Ⅱを履修することになります。</p> <p>なお、この授業（展開演習Ⅰ・Ⅱ）は、下記の神長担当（卒論題目指導も神長担当）の展開演習と合併して開講します。</p>	

外国史学・西洋史	神長英輔（卒業論文指導 神長英輔）
<p>この演習は、西洋近現代史を主題として卒業論文を執筆する方を対象とし、おもに西洋近現代史に関わる専門的な研究の方法を学ぶことを目的とします。受講者は、西洋近現代史を主題とした指定様式での研究発表、発表前のペーパー提出、毎回の授業での発言を義務とします。発表では、自分で選んだ学術論文を手がかりにして自分で問いを立て、自分で入手した史料を読み解いてその問いに答えを出してください。また、これとは別に、前期の初めには、西洋近現代史の基礎的な概説書としてエリック・ホブズボーム『20世紀の歴史 上・下』を講読し、後期の初め</p>	

には、受講者で話し合っ選んだ西洋近現代史の英語論文を講読します。

なお、この授業（展開演習Ⅰ・Ⅱ）は、上記の神長担当（卒論題目指導大久保桂子担当）の展開演習と合併して開講します。

外国史学・西アジア

石丸由美

この演習は、将来西アジアの歴史をテーマに卒論を書くための出発点となる授業です。論文を書くためにはまず自らの興味を知らなければなりません。そこから問題意識を明確にし、テーマを設定し、調べ、論文という形にまとめるということになります。この授業ではこうしたことを一つ一つ指導していきたいと思います。まず自らの興味から「問題をどのように設定するか」「どのように調べるか」「どのような論を展開するか」、さらには工具類（辞書、地図、文献目録など）の使い方、関連論文の探し方など、論文作成に必要なことがらを学ぶこととなります。最初数回の講義形式の授業の後、受講者にテーマを設定し実際発表していただく形で授業を進めていきたいと思います。まずは4年生の卒論発表と学期末には3年生の発表を予定しています。そのほかにテキスト（英文、和文）の講読を中心に行っていきます。

考古学

谷口康浩

日本列島の先史時代（文字史料がまったく無い時代・文化）をテーマとして、先史考古学のさまざまな資料と基礎的な研究方法について学ぶ。縄文時代を中心として、旧石器時代から弥生時代までの先史文化、および北日本地域・南島地域の無文字社会が対象となる。現在の先史考古学は、資料の型式分類・編年などの基礎研究にとどまらず、生業・技術・経済・社会・観念などへと研究の関心が広がり、文化・社会・歴史の総合的理解へと深化している。

この演習では、後期開講の史学展開演習2と合わせて、①論文の読み方・書き方、②研究テーマの設定、③研究史と課題整理、④卒業論文中間報告、の演習課題に順次取り組みながら、各自の卒業論文研究を具体化していく。初回の授業時に、授業計画と到達目標について説明するとともに、推奨する入門書・概説書および精選論文リストを配布する。

考古学

青木 敬

古墳時代および古代（飛鳥時代・奈良時代・平安時代）や、並行する時期の中国や朝鮮半島を対象として考古学の基本的な方法論を学ぶ。これらの時代を対象とした先行研究は多数にのぼるが、その中でもすぐれた研究論文や学術図書を縮約し、批判的に読解していくことで学術論文を読みこなす技術を身につける。批判的に論文を読解するには、論文の構成や論点などを的確に把握し、関連論文との比較検討をおこなうことで、対象とする論文を研究史の中で位置づけることが欠かせない。

また、考古学に不可欠な図表から思考を読み解くトレーニングも欠かせないため、適宜課題として図面・図版などを提示し、そこから何が読み取れるのか全員で議論し、考古学的な思考力を

養っていく。受講生はこれら課題の発表や討論を通じて、卒業論文のテーマ設定と取り組み方について本格的に考える契機としたい。

地域文化と景観	吉田敏弘
<p>絵図・古地図には、単なる「地図」の域を越えたさまざまな情報が描き込まれている。それらを一一つ丁寧に読み解いてゆくうちに、過去の社会の世界認識や生活の場のしくみなどが鮮やかに浮かび上がってくる。</p> <p>このゼミでは、古今東西のさまざまな絵図や古地図を素材として、絵図研究のための基礎知識や研究・分析の方法を学ぶとともに、受講生が自ら絵図・古地図の研究成果を発表し、研究の深化をめざしたい。同じ前期に開講する「絵図古地図研究」(金5)も受講してほしい。</p> <p>地域文化や景観の研究には、教室を離れ、さまざまな地域で調査を行う事が不可欠だ。当ゼミでは、年に二度、岩手県一関市京津畑地区を訪問し、山村の歴史と伝統的生活文化の調査を実施するとともに、神楽を通じて都市農村交流を行う。また、不定期で、荘園絵図が伝わる和歌山県紀の川市粉河荘・井上荘地域の現地調査実施を予定している。受講生諸君にはこれらの現地調査にもぜひ積極的に参加してもらいたい。</p>	

地域文化と景観	林 和生
<p>地域文化と景観コースの私の演習では、眼前に展開する都市や村落などの様々な景観の成り立ちとその変化・仕組みや、地域が育んできた祭礼・伝統行事・芸能など伝承文化、京都・江戸・大坂などの都市で培われてきた伝統文化などをテーマに取り上げます。</p> <p>前期の演習Ⅰでは、受講生諸君それぞれが関心をもつテーマに関連した学術論文や専門図書を読み、さらに都市や農村に残る様々な歴史的景観や祭礼・伝統行事・芸能などの実地調査を通して歴史学や地理学などの基本的考え方や課題、研究方法などを身につけて、卒業研究などに活用できることをめざします。受講生には自分で検索した学術文献の批判的な読解や、実地調査などで集めたデータをもとに、演習で配付する資料を作成して報告し、質疑・討論を通して互いに各自のテーマに対する理解を深めていきます。また研究の資料である古地図や絵図、絵画史料、文書史料、伝承などを読解し研究に活用する技法も学びます。休日を利用したエクスカージョンや見学会、実習旅行も実施したいと考えています。</p> <p>受講生諸君が卒業研究で取り組みたいテーマは多岐にわたっているため、受講生それぞれの関心やテーマに合わせて研究方法や読むべき文献などの個別指導も積極的に行います。</p>	